

生産地が創る流通の仕組み：課題をマーケットブルな形に変換する「ローカル認証」
Place-specific certification schemes: the approach converting local issues into marketable forms

大元 鈴子
Reiko OMOTO

本稿では、近年、世界ならびに国内でも活用が活発化している「ローカル認証」の仕組みを紹介し、地域特有の環境的・社会的課題をもつ生産活動からの生産物の価値付けの転換を検討するものである。ローカル認証とは、行政区、流域等の特定の地域で適用される認証制度であり、「地域の気候、生態系、土壌環境などの特徴を活かし、地域の状況に即した基準を設けた認証制度で、特定の生態系の保全だけでなく、地域全体の持続可能性を目指す取り組み。また、経済的利益を中心的目的とせず、地域的な課題の解決を組みこみ、社会、文化、環境的な地域づくりを重視し、経済と農環境の多様性、地域農水産物の加工と販売を向上させる仕組み」(大元 2017)と定義される。

環境保全や資源管理のための国際的な認証制度とそれらに付随するエコラベル制度は、森林資源の持続可能な利用のための Forest Stewardship Council (FSC:森林管理協議会、1993年設立)以後活発になっている。1997年には、Marine Stewardship Council (MSC:海洋管理協議会)が設立され、所有権が曖昧で、食資源でもある水産物に対する認証制度が展開された。また、2010年には、さらに養殖水産物に適用される Aquaculture Stewardship Council (ASC:水産養殖管理協議会)が発足した。全球的に適用が可能な資源管理認証制度は、時代ごとに国際的に問題視される環境課題、たとえば、天然林の乱開発、天然水産物資源の枯渇、養殖業による海洋汚染・生態系のかく乱、に対処するために発足している。そのため、国際的にある程度共通して認許される環境的・社会的指標を提供している。生産者は、この認証を取得し、その生産物にエコラベルを表示して販売することで、「ユニバーサルな価値」を得ることができる。これは、多くの場合、付加価値化や価格向上のツールとして役立つと認識されている。また、より多くの生産物が地球上を移動する時代において認証制度が必要とされている理由としては、生産現場と消費地の距離ならびに関係性が大きく乖離しているからであり、認証製品のトレーサビリティの確保を通じて、持続可能性という環境配慮という新たな価値(観)を(国際)市場において流通させることができる仕組みであるからといえる。一方で、地域に特有の環境課題の解決ツールの一つに、既存の大きな枠組み(国際制度)ではなく、地域資源の持続可能な利用の仕組みを「内発的に」創りだしていくプロセスとして、ローカル認証がある。ローカル認証の具体事例として、米国の Salmon-Safe(サーモン・セーフ)認証を紹介する。

サーモン・セーフ認証の適用範囲は、ワシントン州とオレゴン州境を流れるコロンビア川の流域(集水域)である。この「ローカル」の範囲は、比較的乾燥地であること、また、フラグシップ種となっているサケ科魚類の生息範囲といて定義されている。サーモン・セーフは、「都市と農地の流域をサケが産卵し、繁栄し続けることができるのに十分綺麗に保つことに貢献する仕組み」として機能することを目指し、以下の基準をもとに農地を審査・認証している。

1. ファームマップの作成（空中写真、地形図、道路、川等）
2. 河道内生息地の保全と再生（河川内の構造物の最小化、土手を安定させる等）
3. 川岸と湿地の植生の保全と再生（緑覆率の測定、緩衝地は流路から 15m～30m、移入種から在来種への変更、等）
4. 灌漑用水の使用と管理（水の損失を最小限にとどめる灌漑設備、雨量、気温、土壌の質等によって適切な灌漑をおこなう、乾燥に強い作物を植える）
5. 土壌侵食の防止と沈殿物の管理（被覆作物の使用、根を深く張る在来種を植える）
6. 総合害虫防除と水質保全（不必要な肥料と危険な殺虫剤（リスト掲載）の禁止、害虫の生態を知る、自然界での捕食者を誘致）
7. 家畜の管理（牧草地のローテーションを行い、土壌が過剰に踏み固められることや浸食を避ける、河川への家畜の侵入を避ける、適切な糞尿の処理）
8. 景観レベルでの生物多様性の向上（農地の 5% を生物多様性向上のために利用する）

これらは、サケが住める水環境のための基準であり、大別すると水質の向上、水量の維持（適切な灌漑用水の使用）、水温の上昇の抑制（河畔林の充実による緑覆率）から成っている。これらは、環境課題を生産者の視点から解決するためのガイドラインとして機能する。サーモン・セーフのもう一つの特徴は、環境課題の背景（もしくは環境課題に起因する）社会経済的課題の解決をも促す点にある。

アメリカ西海岸におけるサケには、大変に複雑な利害関係がある。たとえば、コロンビア川に生息するサケ科魚類のいくつかの種は、米国の種の保存法（Endangered Species Act）による絶滅のおそれのある種の指定を受けているために、公共設備としてのダムにおいても多額な資金を投入しての保護が必要とされる。また、ネイティブ・アメリカンにとっては、文化的に大変重要な種である。これらの利害関係は、サケ保護の法律、灌漑用水確保のためのダム、ネイティブ・アメリカンから農地を貸借する灌漑農家、という関係により複雑となる。サーモン・セーフ認証は、水の利用と管理というステークホルダーが共通にもつ課題を、サケの生息環境の向上として可視化し、より多くのステークホルダーが協働できる設計がなされている。また、消費者には、「水環境の向上に寄与する」という新たな商品特性・価値の選択肢が提供される。

このようなローカル認証では、特定の生態系や種の保全だけではなく、地域の全体的な持続可能性（生業の持続性含む）を視野に入れていることが多い。ローカル認証は、生産者の地道な環境課題への解決の努力としての認証の取得を、マーケットブルな形に変換し（商品にラベルを表示し販売）、その活動に共感する消費者と生産地をつなぐ機能を果たす。つまり、国際的な認証・登録制度が、外部からの制度的枠組みを地域に導入することで地域資源に価値を付与する一方で、ローカル認証は、地域の自発的・創発的なプロセスによって新たな価値形成を促すとともに、その価値を評価する新しい流通ネットワークを構築するプラットフォームとなる。2018 年 2 月に行ったトルコ研究対象地における聞き取り調査では、それまで自身の生産物の流通経路に全く興味を持っていなかった低灌漑ピクルス用メロン（フランスへも輸出される）生産者が、どのような経路で最終製品として流通しているのかわかりたくなった、と話した。共同研究者のそれまでの訪問が、原料生産だけではなくその先の経路に視点を展開したことにより、乾燥地における持続可能性のツールとしてのローカル認証のような仕組みの導入により「過度に灌漑に依拠しない」という新たな生産物の価値（感）の生産者と消費者への導入検討も可能となるであろう。

参考文献：大元鈴子（2017）『ローカル認証—地域が創る流通の仕組み』清水弘文堂書房